

# 主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について（小・中国語） ～令和4年度鹿児島学習定着度調査の結果から～

義務教育課

## 小学校

令和5年1月に実施した鹿児島学習定着度調査では、小5国語科の平均通過率は70.9%であり、このうち「基礎・基本」の問題については76.1%、「思考・表現」の問題については65.1%という結果でした。平均通過率が目標としていた7割を超え、定着が期待される問題を確実に正答できるようになったと考えられます。一方、各設問ごとに見ると、次の内容に課題が見られました。

「基礎・基本」については、中学年で学習する「文の中での修飾と被修飾の関係」（通過率50.2%）「文の中での主語と述語の関係」（通過率59.0%）の問題の通過率が低く表れています。

「思考・表現」については、依然として記述式の問題において課題が見られました。特に、「事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える」問題や「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」問題の通過率が低く表れています。

### 特徴ある問題から

4 の一 通過率 46.8%

事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができるかを問う問題

友達からアドバイスを受け、意見文の下書きから、省いた方が良い一文を抜き出す。

○ 書いている一文を抜き出す問題  
○ 事実ではなく、思いや感じていることを

<p>国 この夢をかなえるために、わたしは、今できることからがんばっていきます。</p>	<p>四 わたしはじゅう医になって、飼いまわす動物の健康を一生懸命に守りたいです。なぜなら、</p>	<p>三 今、わたしが夢の実現のためにしていることは、レディのめんどうをしつかりみることです。レディの毛はふわふわしていて、さわるとじゅうたんみたいでかわいいです。動物の世話を続けることは大変ですが、がんばっています。</p>	<p>二 わたしのしゅう医の夢は、じゅう医になることです。</p>	<p>一 去年の夏、うちで飼っている犬のレディがけがをしてしまったのが、私がじゅう医になろうと思っただけです。ある日、レディはひどいけがをしてしまって、ぐったりしていました。お父さんは、「ちうだめかも」と言いましたが、近所の動物病院のとても親切なじゅう医さんにみていただいて、すっかり元気になりました。そのとき、レディの命を救ってくださったじゅう医さんみたいになりたいと思います。</p>
--	--	---	-----------------------------------	--

【(全学調類題 令和4年度3(1))平均通過率…62.9%】

【(全学調類題 令和5年度2(3))平均通過率…59.6%】



二次元コードを  
読み取ってみよう！  
(授業改善につながる  
資料掲載)



### 学習指導要領解説から

「事実と感想、意見とを区別する」には、接続語や文末表現などにも注意しながら、事実、意見、感想等の関係を明らかにすることが求められる。

「資料を活用する」とは、例えば、必要な文言や数値などを引用したり、実物や画像、映像などを用いたり、図解したものと重要な語句の定義付けなどを明示したりすることが考えられる。

### 授業改善のポイント

「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の授業では、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」を意識しながら指導しましょう。

- 事実と感想、意見とを区別しながら自分の考えをまとめる学習では、単に一つの資料から根拠となる文言や数値を抜き出すのではなく、複数の資料を活用し、様々な情報の中から関係を見出し、結び付けて捉える学習を設定する。
- 相手・目的に応じた資料を主体的に選択できるように、ICT機器や図書資料や新聞等から、幅広く情報を集める活動を設定する。
- どの資料でどんな内容が説明できるかを検討したり、根拠となる資料を指し示しながら説明したりするなど、グループや全体で対話する活動を設定する。
- 接続語や文末表現に着目しながら、複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、図示することによって情報を整理する活動を設定する。

## 中学校

令和5年1月に実施した鹿児島学習定着度調査では、中1国語科の平均通過率は70.4%でした。このうち「基礎・基本」の問題については77.5%、「思考・表現」の問題については64.4%という結果でした。中2国語科の平均通過率は71.0%であり、このうち「基礎・基本」の問題については63.7%、「思考・表現」の問題については75.9%という結果でした。中学校国語科においては、平均通過率が目標としていた7割を超え、定着が期待される問題を確実に正答できるようになったと考えられます。

「基礎・基本」においては、中1では、「漢字の部首名を正しく答える」問題（通過率43.5%）に、中2では、「漢字を正しく読む」問題（通過率13.3%）に課題がありました。

「思考・表現」については、中1では、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」問題、中2では、「読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える」問題の通過率が低く表れています。これらの問題は、課題が継続しています。

### 特徴ある問題から

中1： **2** の一 通過率 58.3%

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかを問う問題

○ どの段落の間に、問題提示する問題  
起文の一文が入るかを

ア 段落①と②の間  
ウ 段落②と③の間  
オ 段落③と④の間  
エ 段落④と⑤の間  
イ 段落⑤と⑥の間

「火を使わずに加熱ができるのは、どのような仕組みによるのでしょうか。」  
「本文中には、次の文が抜けている。段落番号①から⑥のどの段落の間に入れたらよいか。その位置として適切なものを、次のアから一つ選び、記号で答えなさい。」

【(全学調類題 令和5年度4(3))平均通過率…49.5%】

中2： **3** の一 通過率 72.9% (予想80.0%)

読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができるかを問う問題

○ 文末表現「ということです」を「と考えられまし」に書き換える意図を  
選択する問題

「高木さんは『書見文の下書き』を読み返して、『線部①の文末表現「増えているということです」を「増えていると考えられます」に書き換えることにしました。その意図として適切なものを、次のアから一つ選び、その記号を書きなさい。」  
ア 直前の文で述べている事実の根拠であることをより明確にするため  
イ 直前の文で述べている事実に対する考察であることを明確にするため  
ウ 直後の文で述べている意見の具体例であることをより明確にするため  
エ 直後の文で述べている意見の根拠となる事実であることを明確にするため

【(全学調類題 令和5年度3(1))平均通過率…50.0%】



二次元コードを  
読み取ってみよう！  
(授業改善につながる  
資料掲載)



### 学習指導要領解説から

「根拠を明確にして考える」には、文章の組立てや作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、考えの進め方や登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。

「表現の効果などを確かめて、文章を整える」には、自分の表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて読み手の立場から検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現にしていくことが重要である。

### 授業改善のポイント

「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の授業では、自分の意見の根拠を明確にして考えたり、文章を推敲したりする際に、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」を意識しながら指導しましょう。

- 自分の意見の根拠を叙述に求める指導を行う。その際、文末表現を意識させ、叙述と自分の考えを区別して書かせるようにする。
- 「なぜそう考えるの。どの文からそう思うの。」「今の考えと同じだけど、根拠の文が異なる人はいるかな。」「根拠の文は同じだけど、考えが異なる人はいるかな。」といった対話活動を積極的に取り入れるようにする。
- 推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する活動や、学習のプロセスを振り返る活動を取り入れるようにする。